

北海道師範塾「教師の道」副塾頭

鈴木 重男さん

校長らが講師役として現任教員に経験を伝え、指導力底上げを図る「師範塾」を昨年、前道教育長の吉田洋一道社会福祉事業団理事長らとともに設立した。塾頭の吉田氏の下で副塾頭に就き、16年間培った養護学校教諭としての経験を現場に引き継いでいく。低迷する全国学力テストや体力テスト、増加するいじめ、減らない不登校。「子供を最高に輝かせるのが教師の役目。」



ひと 2011

北海道の子供たちは今、輝いていますか」。熱い語り口に教育現場への強い思いがにじむ。道教大卒業後、札幌盲学校で教師生活を開始。独自の歩行訓練法や文字指導法を考案したり、生徒とサッカーチームをつくって全国大会に出たり。普通高校に進学した全盲の男子生徒を支えるため、1年間一緒に暮らしたこともある。「子供と学び合い、育ち合う教師人生だった」と振り返る。塾は8月に札幌で開いた夏季講座で本格始動。現任教員約50人が参加し、マスコミ関係者らの講演や現場の実践報告などを行い、鈴木さんは教員の思いに耳を傾け本音で語り合った。「現場教員と学び合う場をつくる」とが役割」と再認識した。札幌で妻と2人暮らし。道教委指導主事や札幌養護学校校長などを経て2008年に退職。現在は道文教大准教授。「学生が、おななすかせてやってくるからね」と、研究室にはキャンディーやクッキーを常備している。64歳。(古川有子)